

ツマベニチョウだより (第7号)

今年に入って最初のツマベニチョウだよりをお届けします。

昨年と同様これからも節目、節目に号を追ってお届けしますのでよろしくお願ひします。

◎ ギョボクやランタナの苗木を現地でも育成して下さることになりました。

昨年は友人や知人の方がたの一方ならぬお力添えでギョボクの苗木を沢山作って戴き、300本以上を宮浦地区や南郷町の大島に植栽して貰うことが出来ました。本年は宮浦地区の「木の会」(会員18名)の皆様やサンメッセ日南様、それに花木栽培がご専門の利風園(日南市益安)の加藤隆仁社長様からも挿し木のお力添えを戴くことになりました。

◎ 宮浦トンネル入口のランタナの枝を沢山戴きました。

昨年の「ツマベニチョウだより」でお知らせしました、宮浦トンネル入口付近のランタナの枝を挿し木の穂木用にと、建設省宮崎工事事務所の日南国道維持出張所にお願ひしましたところ、技術係長の大浦勇一様のご芳志により、3月19日に軽トラック2台分も採らせて戴くことが出来ました。それを「木の会」やサンメッセ日南や利風園でそれぞれ挿し木して貰いました。いくら活着するか分かりませんが少なくとも3000本は採れるものと思います。

◎ 種子島に行ってツマベニチョウの飼育の実際を見てきました。

チョウの羽化には早かったのですが、先月の26、7の両日種子島開発総合センター(鉄砲館)を訪問して、飼育の場所や越冬状況その他を勉強して来ました。写真撮影禁止の館内でしたが、それを許可されたうえに担当の尾形之善様が親切に詳しく説明して下さいました。飼育されている場所は同センターの吹抜けの中庭(60平方メートル程の広さ)の2階建ての所に網を張っただけの簡単なもので、チョウは蛹の状態は何匹もギョボクやオオタニワタリの枝や葉の裏にぶら下がっていました。4月半ばには一斉に羽化して交尾し、6月になるといっぱい殖えるとのことでした。

◎ 南郷町の夫婦浦にツマベニチョウをあしらったモニュメントが出来ました。

2月15日に宮崎県南那珂農林振興局の岩元浩技師様からお電話があり、「南郷町のふるさと農道夫婦浦地区竣工に伴うモニュメントに、ツマベニチョウの絵を使いたいので、カラーの写真が欲しい」とのことでしたので、宮崎県総合博物館にお願ひしてツマベニチョウの写真を戴いてお届けしました。それが完成したとのことでしたので昨日見に行ってきました。とても景色の良い所に見事に出来ていました。(下図参照) 平成11年4月7日 海老原秀夫

